

第25回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日時 昭和52年10月12日(火) 午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 実験用中容量静止通信衛星（C S）の打上げ期日
について
（説明者 宇宙開発事業団 理事
平 木 一 他）
4. 資料
委25-1 第24回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
委25-2 実験用中容量静止通信衛星（C S）の打上げ予
定日について

（参考配布） 宇宙から地球をみる。

第24回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時 昭和52年9月21日（水）午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 静止気象衛星（GMS）の打上げ結果の評価について
4. 資料
 - 委24-1 第23回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 - 委24-2 静止気象衛星（GMS）の打上げ結果の評価について案
5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	網 島 毅
“ 委員	吉 識 雅 夫
“ “	斎 藤 成 文
関係省庁職員等	
科学技術庁長官官房参事官	佐 伯 宗 治
通商産業省機械情報産業局次長	水野上 晃 章
	（代理：角田）
工業技術院総務部長	沢 井 新一郎
	（“：高橋）
運輸省大臣官房参事官	沼 越 達 也
	（“：上田）

気象庁総務部長

高 井 重 寿

（“：高谷）

海上保安庁総務部長

鈴 木 登

（“：佐藤）

郵政省電波監理局審議官

門 田 博

（“：九里）

建設省大臣官房技術参事官

北 野 章

（“：石原）

郵政省電波監理局

金 谷 利 二

宇宙開発事業団

飯 塚 裕 久

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

伊 藤 栄 一

“ 宇宙国際課長

三 浦 信

“ 宇宙開発課長

雨 村 博 光 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第23回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2) 静止気象衛星（GMS）の打上げ結果の評価について

事務局から資料委24-2に基づいて説明が行われたのち、原案どおり決定された。

なお、ミッションが終った時、静止気象衛星計画の総合的評価を行うことが確認された。

実験用中容量静止通信衛星(CS)打上げ予定日について

1. CS 打上げ予定日の決定内容

従来 NASA と ESA との間をとりまわっていた CS の打上げ予定日は、2 項にのりも経緯によ、

(従来)

(今回)

52. 10. 2 (金)

52. 10. 9 (金) ----- 何れも日本時間 (JST)

52. 10. 1 (木)

52. 10. 8 (木) ----- 何れも米国現地時間 (EST)

のように決定しました。

2. 今回の決定に至った経緯

2-1. すでに関係各位 御存知のように、NASA が 52. 9. 13 (EST) ETR において デルタ 3P/4 型ロケット

による欧州宇宙機関 (European Space Agency; ESA) の実験用通信衛星 (Orbital Test Satellite; OTS) の打上げは失敗致しました。(9月15日付国内新聞、TV ニュース等)

2-2. NASA は、この OTS/デルタ 3P/4 打上げ失敗直後、ロケット残骸を回収するとともに、NASA 事故調査委員会を設け、本事故の現象・原因等の調査活動を開始したと、52 年内のデルタ 3P/4 型ロケットによる

残りの 3 衛星の打上げ予定日を上記の原因が判明するまで 当分保留すると、しかし、次の 10 月打上げ予定の衛星の打上げ準備作業は進めていること。そして 月々の CS 打上げ日については、判明次第で通知

する旨、NASA に連絡して参りました。(52. 9. 23 付)

なお、上述の 3 衛星名と従来の打上げ予定日は、次のとおりであります。

(1) 国際太陽・地球探査衛星-A/B (International Sun-Earth Explorer-A/B; ISEE-A/B
- A は NASA, - B は ESA という複数ミッション) ----- 52. 10. 13 (EST)

- (2) ESAの静止気象衛星 (METEOSAT) - - - - - 50.11.3 (EST)
(3) 日本の実験用中容量静止通信衛星 (CS) - - - - - 50.10.1 (EST)

2-3 その後、NASAは、NASA事故調査委員会の迅速な活動により、今回のOTS/デルタSP14型ロケットの打上げ失敗の原因は、SP14型ロケットの固体補助ロケット(キャストII型; SP14型のキャストIIに比べて大型のもの)1本の中の1本の爆発に起因したものであること、そして前述の今年内の3衛星用打上げロケットであるSP14型ロケットとは直接関係のないこと、従ってこれら3衛星の打上げは大幅に遅れることはなく、夫々約1週間の予定日より延期されたとの通知をNASAに連絡して参りました。(50.10.3付)

2-4 これをうけて、NASAは、種々検討の結果、1週間程度であれば止むを得ないとの判断を行い、関係省方とも御相談の結果、CSの打上げ予定日をNASAの申し入れどおり、受諾致すこととなった次第であります。

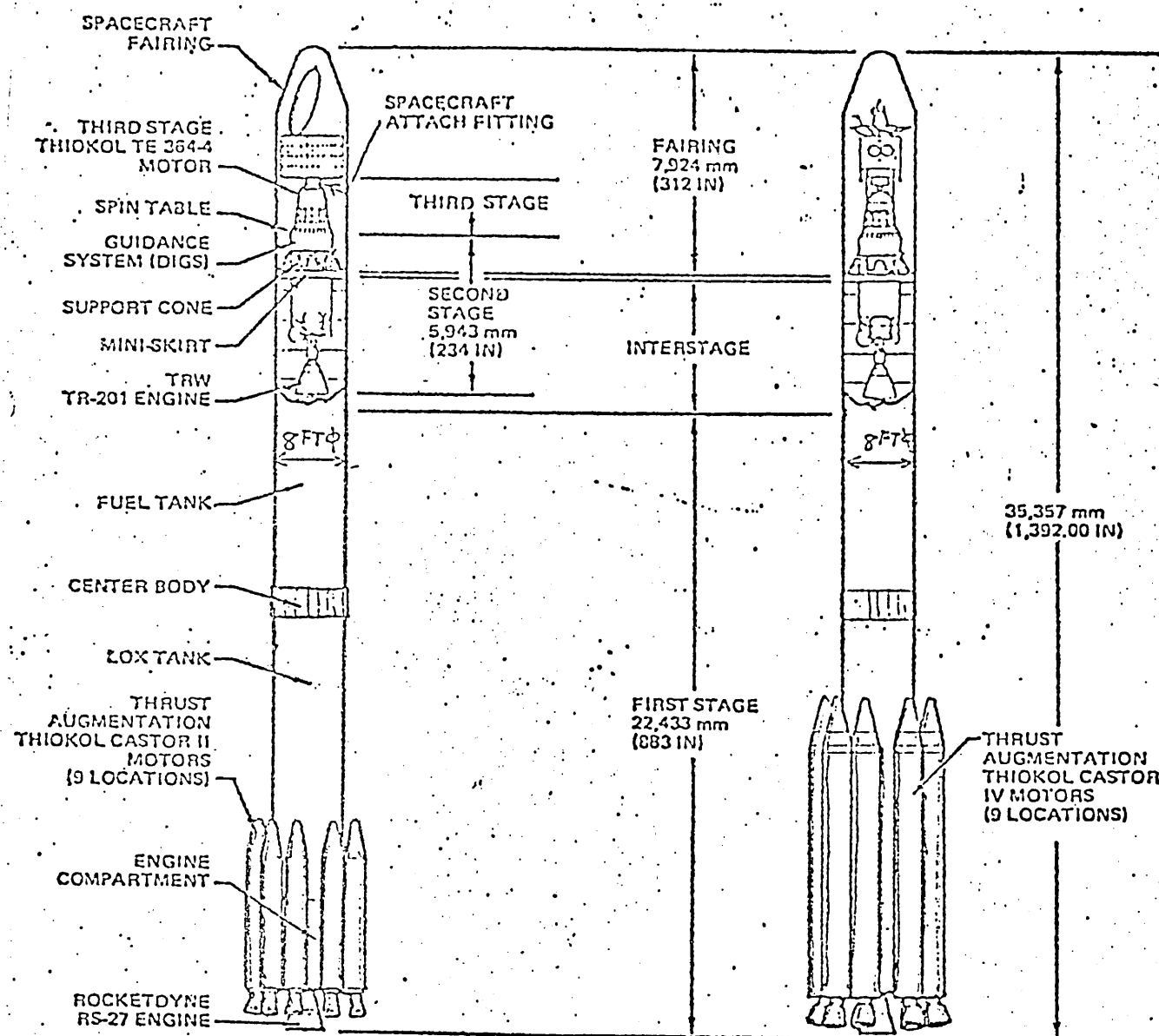
以上

(参考)

デルタ 2914型 と 3914型の比較

デルタ 2914型

デルタ 3914型



固体補助ロケット

CASTOR II

0.79 m ϕ (31 in.)

6.05 m (238 in.)

3.73 ton (8220 lbs.)

885.9 ton.s (195 klbs)

705 kg (1551 lbs)

182.5 ton (292 klbs)

型式

直径

長さ

推進薬重量

トータルインパルス

3段有効ペイロード

ロケット全重量

CASTOR IV

1.02 m ϕ (40 in.)

9.09 m (358 in.)

9.39 ton (20710 lbs)

2159 ton.s (4761 klbs)

930 kg (2050 lbs)

187.5 ton (413.3 klbs)